



会長あいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 上田 克彦

第39回日本診療放射線技師学術大会

近年の日本では、「数十年に1度の大雨」といわれる豪雨により全国各地で災害が発生しています。1999年9月24日の台風による高潮で、当時、私が勤務していた山口大学医学部附属病院が水没し、一階に設置していた放射線部門のほとんどの装置が被害を受けました。水が襲ってくる速度は想像を超える速さであったことを鮮明に覚えています。車も押し流されましたが、私は死ななくてよかったという思いが一番でした。その後、水害を意識した建物の変更などに長い時間を要しました。会員の皆さまには、最悪のシナリオを想定した患者さんやご自身の避難訓練をお願いしたいと思います。

さて、第39回日本診療放射線技師学術大会は熊本県放射線技師会の西小野会長に大会長をお願いし、本年9月29日から10月1日にかけて熊本市の熊本城ホールで開催する運びとなりました。本大会は、一昨年の第37回東京大会から実施しているハイブリッド開催を継承し、アフターコロナに対応した準備を進めています。オンデマンドによるWeb開催も可能となっておりますので、現地開催後でもたくさんの大会企画をぜひご視聴いただきたいと思います。また昨年の第38回神戸大会では中止した情報交換会も開催し、同時開催される30th East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT) では、アジア各国から多くの診療放射線技師の方が参加され、久しぶりの国際交流も盛り上がることを期待しています。さらに例年と同様に厚生労働省からの基調講演として、「放射線部門に於ける医療安全管理責任者の役割」「タスク・シフト/シェアを効果的に進めるために」の2題（いずれも仮題）を頂き、各テーマに関連したシンポジウムを企画しています。一般演題発表では、今回から「研究」と「報告」の区分に分け416演題（口述360、示説56）の発表が予定されています。「報告」の区分では、日々の診療の一環で業務改善につながる内容を中心に応募いただいています。学術講演の他、市民公開講座の講演では、熊本地震からの復興に尽力されている元サッカー日本代表選手の巻誠一郎先生にご登壇いただきます。巻先生には、本大会のテーマ「復興の地からはじまる技術革新」に共感され、講師をお引き受けいただき感謝しております。

本大会の企画から準備、運営までご尽力いただきました熊本県放射線技師会の皆さまに感謝申し上げ、この学術大会が皆さまのお役に立てることを祈念しております。